

下牧 一郎 議員



● 恐竜博物館を中核とした観光に関するビジョンについて

※エデュテイメント＝エデュケーション＋エンターテイメントの造語。教育と娯楽の融合を意味する

一般質問

問 県は3月に「第2恐竜博物館(仮称)」に関する基本構想を発表し、整備に当たった基本構想の基本的な考え方において、子どもから大人まで誰もが楽しみながら学べる「世界一の※エデュテイメント博物館」としている。基本構想では、「恐竜博物館及び第2恐竜博物館を核に、県内各地の観光地や自然体験などの観光資源を組み合わせた周遊滞在型観光を推進する拠点としての役割を担うこと」となっている。

答 今春にはジオタミナルがオープン、32年度に道の駅がオープン、34年度には北陸新幹線敦賀開業、中部縦貫自動車道大野坂道路の完成と当市を取り巻く環境が大きく変わろうとしているチャンスを見逃さず、観光を産業化するには思い切った施策がいくつも必要なのではないか。

問 そこで市長に、恐竜博物館及び第2恐竜博物館を中核とした観光及び観光連携のビジョンを伺いたい。

答 第2恐竜博物館の建設が今後の最大の変化の要因と考えている。実現すれば、博物館2館が連

携し、より充実した恐竜博物館を核に、白山平泉寺、スキージャム勝山、越前大仏、勝山城博物館及び旧市街地の文化財や近代化産業遺産など勝山市が誇る多彩な観光資源を活かして、いかに観光の力をつけていくかが、今後5年間の一番の課題。それぞれの観光素材をどのお客様に、どのタイミングで提供し、又はアレンジして勝山市を楽しんで頂くか。その機能を担う、まちづくり会社を順調に成長していくことが今後の勝山市の観光振興のカギであると考えている。

そのためにも専門分野に長けた人材確保が必要。優れたリーダーの下に勝山市の若い人たちに、この会社に入ってもらおうことで勝山市の観光をリードしていくてもらいたい。自分たちの生まれたまちをつくって行く、自分たちの故郷をどういうふうにか、もっともつとアピールしていくか、人に自慢できるものにしていくか、そのためにも人材を見きわめながら採用することも必要だと思っている。

松山 信裕 議員



● まちづくりについて ● 勝山市の防災関係

そのほかの質問
・モンベルとの連携について
・福祉について

一般質問

問 地方を取り巻く状況は厳しさを増し、少子高齢化と人口減少は加速度的に進み、集落の維持すらままならない地域も珍しくなくなってきた。今後のまちづくりは、今住んでおられる地域住民の方々に生涯にわたる安全・安心な生活を支援できる施策の確立が重要。地域の課題、問題の共有を進めながら、住民自治の活動を支援する勝山型の「地域運営組織」体制づくりが必要である。

答 勝山市においてこのようなまちづくり組織の形態は、エコミュージアム活動の取り組みの一環として市内の各地域で設立した、各地区まちづくり協議会と同様ではないかと考えている。この各地区まちづくり協議会は、地域主体で公共の福祉を担っており、小規模多機能自治組織の理念と合致している。勝山市は、まちづくり活動を行う団体に支援を行っており、この取り組みの成果も上がっている。

問 まちづくり活動の手法・形態が議員が提案する勝山型「地域運営組織」体制に更に発展するか、また「小規模多機能自治組

織」の手法を取り入れた新たな「地域運営組織」を目指すのかについては、議員のご意見も含めて検討していきたい。

問 防災行政無線のスピーカーから流された避難指示や情報が聞こえないと多くの市民が不安を感じている。

答 今後、多重な情報提供手段と情報伝達手段の確保が必要。今後の計画をどのように進めていくのか。

問 情報伝達手段として防災行政無線、勝山市緊急メールサービス、広報車、区長方への電話連絡がある。これらのチャンネルを増やすものとして、戸別受信機や防災FMラジオなどがあり、その導入を検討したが、費用対効果の観点から導入を見送っている。

答 技術の進歩により次々と新たなツールが提案されるため、これらを検証していく必要がある。まずは既存の勝山市緊急メールサービスを市民の方にさらに周知・広報し、その登録者数を増やすことに対応していきたい。